



一般質問

これまでの一般質問の詳細は会議録またはホームページでご覧いただけます。今回のものは2月下旬の予定です。会議録は図書館、各支所、本所ロビーで用意してあります。

佐竹政志議員

副市長人事について

質問 天野市政がスタートして2年近くになるうとしていますが、副市長不在が続いている。これは、異常事態と言わざるを得ない。定例議会の度に質問も出ているが、いまだに市長からの提案がない。阿賀野市政を円滑に進めようとする意志を示す意味でも早期に副市長の人事案件を提案すべきと思うが、市長の意思を伺う。

答弁 県職員OBの方に就任の打診を行ってきたが、了解していただけなかったことから断念することにした。今後は国からの人材登用や公募による登用などを考えていきたい。

質問 市長は先の議会で県に対して副市長の派遣要請をしたが、応えてもらえなかったと報告しており、このような経過を考えれば国からの登用は無理と考える。又公

募についても、市長就任後すぐであれば理解出来るが時間的な問題もあり、市役所内部からの登用も考えたかどうか伺う。

答弁 国からの登用が無理ならば公募等で私の考え方を理解して頂ける方を早期に探したい。



山賀清一議員

防災防火救命について

質問 4カ所の常備消防体制で本町の安心安全と言えるのか。実働体制には様々な苦情と問題が生じていることについて伺う。

答弁 火災通報を受け出動指令で本署から消防車とタンク車の2台と分遣所から消防車、救急車と計6台出動する。大火災には非番者を招集し近隣市町からも応援願う。急患者について救急隊長が容態にあった病院に収容要請をしてもなかなか受け入れ態勢が困難で苦情あることは事実。関係機関が知恵を出し合い早急に改善を図る必要がある。消防団員の不足の為、市消防災害支援隊設置要綱を制定し消防署、消防団OBや地域のマンパワーをお願いし、組織したいと考えている。

質問 河川法上維持管理の徹底を管理者に強く要請すべきであり考えを伺う。

答弁 土砂の堆積や雑草が繁茂し流下能力を阻害している箇所、早期に修繕等を要する箇所について河川管理者に強く働きかけをする。市としても地域環境保全と安心安全を第一として考えている。

稲毛 明議員

学校給食について

質問 先進的な自治体では、地産地消推進協議会を立ち上げ、地場の自給量を上げるために努力している。センター方式から自校式に、週5回の米飯と努力している。市でも地場の食材の活用を大いに進めるため「協議会」的なものを立ち上げるべきと思うが見解を伺う。

答弁 市農協協議会の下部組織としての「地産地消部会」で情報を共有し連携を図りながら、市内12カ所の「農産物直売所」の健全運営や学校給食への地場の供給を推進している。

質問 市内の料理屋組合や旅館組合などからも使っていたり、特養施設での地場の使用も大切であり、市としても積極的に仲立ちをしたい。

答弁 農協など関係機関と一体となり各地域に見合った設定単価とするよう、要望したい。

遠藤智子議員

「国民読書年」にあたっての本市の取り組みについて

質問 テレビ等電子メディアの過度な接触など多様な環境による、読書離れが子どもの心身に及ぼす影響が懸念されている。国は近年、年齢層を問わず「活字、読書離れ」が進んでいる現状を受け止め、平成22年を「国民読書年」と定め「政治家が協力し、国をあげてあらゆる努力を重ねる」と決議した。本市の取り組みについて伺う。

答弁 本市の子どもの達も例外ではなく読書離れが進んでおり、全国学力・学習状況調査では一年間に一冊も本を読まなかった子ども達の割合が小学6年生、23・8%、中学3年生、42・0%で、県や全国平均を上まわっている状況にある。

子ども達は読書を通じて、「読解力」「想像力」「思考力」「表現力」等の生きる力を養い感性が高められ、心の豊かさがもたらされる。

それは大人にも通じるものであり、本市では「国民読書年」である平成22年度を読書の持つ意義や良さを、市民と共に共有するきっかけの年と捉え、図書館を中心に児童、生徒への読書推進や様々な世帯を対象とした関連事業に取り組む。

意見 子どもの読書の推進を図るには幼少時から親子の読み聞かせの大切さ。読み聞かせボランティアの大切さと増員について。

再質問 今後、国・県や地権者にどう対処するつもりか。

答弁 変更、取り下げ等、必要があれば出向きたい。

高橋幸信議員

交流促進エリア再構築の取り組みと関連について

質問 市長が「福祉の道の駅」整備事業の中止を表明して以来、長年努力されてきた地元地権者、国や県、民間業者、フィンランド大使館など多くの方に戸惑いと迷惑をかけ、行政に対する不信感を抱かせ続けている。このような中、2月の地域審議会や地権者との会合、3月議会では、市民交流エリアとして位置づけ再構築する」と発言し、早急に検討委員会を立ち上げ、次回の地権者との会合で具体的なビジョンを示すと約束した。その7月の地権者との会合時、そして今現在も、検討委員会すら立ち上げていない。またもや約束を破る結果になった。どうなっているのかを伺う。

再質問 今後、国・県や地権者にどう対処するつもりか。

答弁 一旦白紙に戻し、市民から理解を得られる内容であれば再構築を考えると興味がある。

福住つゆ子議員

ほんとうに、市長は、市民派か!!

質問 マニフェストは市民を幸せにする手段であって目的ではない。選挙対策としての付け焼き刃ではだめで、選挙後はマニフェストの仕分けが必要である。場合によっては実行をやめてもらった方がいい場合もある。

市長は自ら掲げたマニフェストに基づく市の将来像をどのように描いているのか、それによって市民はどう幸せになれるのかを伺う。

具体的には、①マニフェストに求められるものは何か。②チェンジのキャッチフレーズは何か。③市長のとなえるボトム・アップ構想とは何か。

答弁 マニフェストは市政の現状と今後状況変化を見据えた中で私が市長になったら重点的に取り組んでいきたい政策を掲載したものである。めざすまちは「住んでいて良かったと言えるまち・市を離れた人がまた帰ってきたいと思えるまち・ぜひ住んでみたいまち」である。

